

報道関係者の皆様へ

本資料は、岩手医科大学のプレスリリースです。

お問い合わせは、下記担当宛てにご連絡ください。



岩手医科大学

プレスリリース

平成 25 年 6 月 10 日

二戸特産ウルシに血圧降下作用の可能性

漆器等に使用される生ウルシは国内生産の 7 割が二戸市で生産されています。国内産は高い品質を保持しているにもかかわらず、国内で使用される生ウルシのほとんどは外国産です。二戸市では、浄法寺塗りが良く知られており産業として力を注いでいますが、生ウルシを採取した後の幹や枝の処分に苦慮しています。

生ウルシは、ウルシの幹に傷をつけ、出てきた樹液を採取、生成したものであり、幹の高い位置から低い位置に順次傷をつけ採取していきます。しかしながら、採取には限界があり、生ウルシを採取できなくなった木は、伐採、廃棄されてしまいます。この廃棄されるウルシ幹、枝の有効活用について、岩手医科大学薬学部、岩手県工業技術センター、浄法寺漆産業、岩手県林業技術センターが共同研究に取り組んだところ、血圧を低下させる成分が含まれている可能性が示唆され、先に行われた日本栄養・食糧学会で報告しました。

本研究は、ウルシの幹及び枝を細かく粉碎し、温水で抽出した抽出液を用いて血管収縮に関連するアンギオテンシン変換酵素(ACE)の阻害活性を測定したもので、いずれの部位でも阻害活性を有していること、また、生ウルシのかぶれの原因であるウルシオールが水に溶解しないのに対し、ACE 阻害活性成分は水溶性の成分であることを明らかにしました。ウルシ幹及び枝抽出物による本作用は、血管の収縮を抑制することから血圧低下につながる可能性を示すものであります。

ウルシを食用とする国もあり、廃棄されるウルシ幹、枝の有効活用が岩手県の産業の活性化につながることで、さらに、今後の研究で本成分が明らかとなれば、国民の健康にも寄与できるものとして期待されています。

< 本件のお問い合わせ先 >

岩手医科大学 薬学部創剤学講座

助教 杉山 育美

電話：019-651-5111（内線 5252）